

1. 研究課題名：農薬取締法における水質汚濁に係る農薬の登録保留基準見直しのための根拠データの取得

2. 研究代表者氏名及び所属： 高梨 啓和
(鹿児島大学大学院理工学研究科)



3. 研究実施期間： 平成 23～25 年度

4. 研究の趣旨・概要

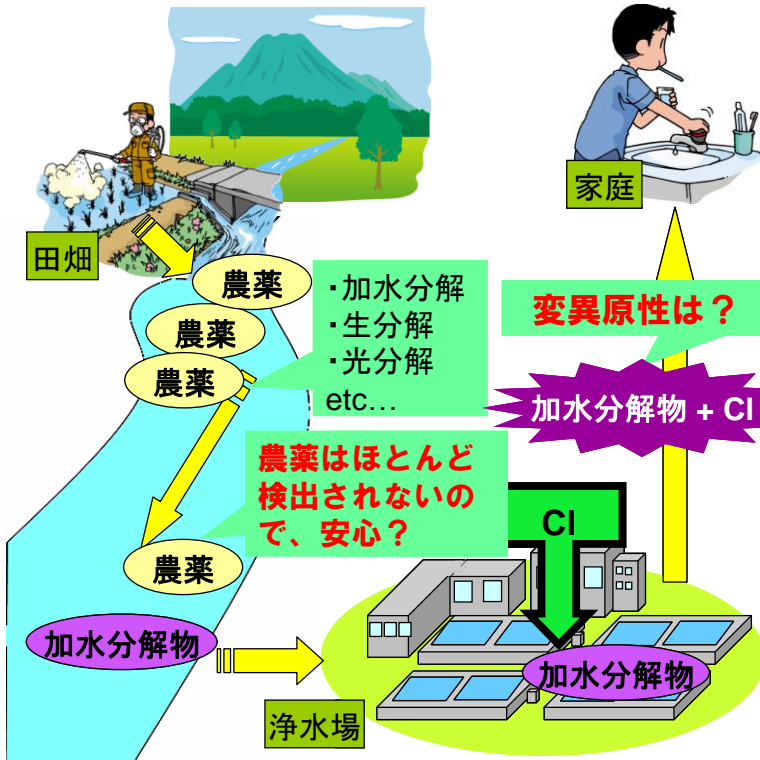
農薬分解物が水環境中から検出されることがあるが、その濃度レベルや分布は十分に明らかにされているとは言えない。また、農薬分解物が浄水場で塩素処理を受けた際、変異原性物質を生成することが示唆されている。

そこで本研究では、農薬分解物の水環境中での濃度レベルを調査して、分解される前の農薬原体の濃度と比較する。また、塩素処理によって農薬分解物から変異原性物質が生成することを明らかにするために、多くの農薬加水分解物の塩素処理実験を行って変異原性の増減を検討するとともに、モデル物質を塩素処理した際に生成する変異原性物質の構造を検討する。さらに、浄水処理により農薬分解物を除去する方法を検討する。

5. 研究項目及び実施体制

- ①農薬加水分解物の変異原性物質生成能 (MFP)測定と生成する変異原の探索
(鹿児島大学)
- ②農薬加水分解物の河川水中濃度モニタリング
(横浜国立大学)
- ③農薬加水分解物の浄水処理性の評価
(北海道大学)

農薬取締法における水質汚濁に係る 農薬の登録保留基準見直しのための根拠データの取得



有機リン系殺虫剤
Fenitrothion (MEP)の例

